



# 学校だより

12月号

令和2年11月30日

まちのみんなひとつになあれ

## 「学びの工夫」

校長 堀野 由里

このコロナ禍で様々な制約がありますが、10月から12月にかけて、校外学習や出前授業などを少しずつ行っています。4年生の校外学習や6年生の箱根修学旅行のように宿泊を日帰りにし、行き先を変えて行ったり、5年生の行き先は予定通り愛川ですが、日帰りで実施したりしています。移動方法も公共交通機関を使わずに、貸し切りバスを使います。宿泊できず、また対コロナの対策をしっかりと行っていくために、何をめあてとし、何を学ぶか、内容を絞り込んで行います。子どもたちの安全を第一に、そして楽しい思い出が残るように、それぞれの学年が考えています。

また校外学習だけではなく、例年なら実際に見学に行かせていただいていた地域の施設も、訪ねることができません。そんな中、できるだけ実際のものをみるができるように、出前授業など、様々なご協力をいただけて学習を進めています。例えば3年生は社会科で、自分たちが住んでいる身近な地域の生産や販売の学習をします。いつもなら学区にある近隣のたまご工場に行き、たまごが販売されるまでの過程を実際に見学させていただいています。今年は来校してクラスごとに出前授業をしていただきました。また駅前のスーパーマーケットでも例年は店内やバックヤードの見学をさせてもらっています。お店に行けない今年は、お店の方と質問事項をやり取りしながら、お店の工夫やそこで働く方たちの思いを学んでいます。この後実際に家の人とお店に行く機会があれば、学んだことを身近に感じることでしょう。このほかにも市資源循環局や神奈川県警などの出前授業があります。本当は出かけて行って、実際に目で見てその場で話を聞いて学ぶことがとても大事ですが、今年度は難しくなっています。そのような状況で、子どもたちのために、まちの方たちもご協力くださり、少しでも学びが自分ごとになるようにしてくださっているのはとてもありがたいことだと感じています。

先日、いつもなら学校の授業やクラブにサポートに入ってくくださる大谷福寿会の皆さんにお会いする機会がありました。子どもたちのことを気にかけてくださり、コロナが収束したら、また学校に来てくださるとお話していただきました。まちの方たちとのかかわりからは、子どもたちは、技術的なことだけでなく温かい励ましなど、心の面でも多くの支えをもらっています。出かけられない、会うことができない間もまちとのつながりを忘れずにいて、次につないでいきたいと思っています。

2020年もあと1か月となりました。どのような状況でも、子どもたちの成長は止まることはありません。どんな学びがよいのか、安全、安心できる場をどのように学校につくっていくのか、保護者やまちの皆様、そして子どもたち、私たち教職員、みんなで考えていきたいと思っています。これまでのご理解とご協力に感謝しますと共に、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

